



# War Cry

5月号

福音版  
2026  
May  
No.2905

二〇二六年 五月一日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行 広報版・奇数月十五日発行

# GOOD NEWS とぎのこえ



## ここにはおられません

倉持 守

「あの方は、ここにはおられない。かねて言われていたとおり、復活なさったのだ。」(マタイによる福音書28章6節)

「あの方は、ここにはおられない。かねて言われていたとおり、復活なさったのだ。」(マタイによる福音書28章6節)

それが聖書の言葉によって約束されているのです。ですから、クリスチャンの葬儀は悲しさだけが溢れるのではなく、感謝と希望があるのです。

十字架につけられて死に、葬られたイエスの墓にやって来た女性たちに、天使が告げた言葉です。

最近、私は、短い期間に、知人の葬儀に幾度か参列しました。ある時は、長寿を全うした九十歳近い方の葬儀でしたが、その数カ月後には、今年成人を迎えたばかりの青年の葬儀でした。「なぜ、こんなに若くして亡くなってしまったのか」と思ってしまう、寂しさを覚える葬儀でしたが、二人の方に共通することがあります。それは、この地上で生きた人生を、イエス・キリストを信じる信仰によって歩んでいったということです。

私は昨年、救世軍での様々な働きに関わりをもたせていただくようになりましたが、救世軍の特色の一つに、ブラスバンドがあります。イースターの日の朝の礼拝で、イースターの賛美が最初に高らかにブラスバンドの演奏から始まった時、とても感動しました。イエス・キリストは、ただ、他の犯罪人たちと同じように十字架上で処刑されて死んだだけではなく、死からよみがえり、復活したのです！悲しみに打ちひしがれていた人たちに、その復活した体を証拠として見せ、彼らに先立って復活したことを示されました。

しかし、この復活がなければ、キリスト教信仰は無価値であると、キリストの使徒、パウロは語っています(コリントの信徒への手紙一15章14節)。ですから、聖書を知る上で、復活を信じるか信じないかは、大きな分かれ目です。復活を語り、聞き、聞く人の反応は分かれます。それを信じる人と、「そんなことはありえない。

葬儀には大勢の方が来られていました。初めてキリスト教式の葬儀に参列された方も多くおられました。その式の内容にとっても感動されていきました。確かに、故人との別れは誰しもが寂しさを覚えるものですが、イエス・キリストを信じる者は、死で終わりではありません。イエス・キリストと同じように復活する、よみがえることを信じており、

日本では長らく、「死」をタブーとし、日常からなるべく考えないようにする、いろいろな工夫がされてきています。しかし、人は生まれてきたなら必ず、地上での生を終える時が来ます。今こそ、イエス・キリストを信じて復活する信仰をもとうではありませんか。

(国内宣教師)

# 痛みと憎しみからの 回復と赦しのプロセス

高奈 美香さん



夫と共に

## プロフィール

函館生まれ。父の転勤で札幌、横浜、仙台、東京、大阪と各地に住む。関西学院大学卒業後、渡米。ネブラスカ州の Grace Collage of the Bible で聖書と音楽を学ぶ。帰国後、宣教団体にて音楽伝道部門「ソングライズ」を設立。海外からのアーティストや講師の方々の演奏会や講演会のマネジメント、自らも歌手としてレコーディングや演奏活動、また、礼拝についての講演会もおこなってきた。現在は仙台在住。日本長老教会グレースセンターチャーチ仙台所属。

趣味は料理、カメラ、洋裁。夫である高奈秀匡と音楽ユニット「Wings」を組んで活動中。4枚のCDをリリース。

## ピアノとの出会い

音楽ユニット「Wings」のボーカルで、美しい澄んだ歌声が印象的な高奈美香さん。幼い頃の過酷な経験を経て、キリストに出会い、音楽を通して神様の賛美する新しい生き方へと導かれた、高奈さんの歩みをお聞きしました。

初めてピアノのレッスンに連れて行かれた日のことは今でも覚えています。姉が習っていた先生のお宅に行き、グランドピアノの前で一番低いドの音から一番高いドの音をひとつずつ小さな指で弾いてみた私はまだ三歳でした。

あえて「連れて行かれた」と書きましたが、私がピアノを習い始めたのは母の強い意思によるものでした。当時、もうすでに有名な音高に入学していた姉よりもさらに高みを目指し、国際的なピアニストへと私を育てるという確固たる人生設計を母は抱いていたのです。

## 小学生、中学生時代

著名な先生方につき、音大附属の「子供のための音楽教室」に入学し、定期的な実技や楽典の試験（バスしないと学校は退学）や演奏会



幼少時 ピアノの発表会

のために練習は毎日三時間学校に行く前に練習、学校が終わると母が迎えに来て練習。体育の授業は見学し、試験が近くなると学校や学校行事も休まされたこともありました。旅行の時も楽譜を持ってエアピアノのように練習。お友達と子どもらしく遊んだ経験がほとんどない小学生時代でした。

もしかしたら、ピアノを習いたかったけれど習えなかった人にとっては羨ましい話かもしれませんね。しかし、精神的にはかなり過酷な状況でした。理由は第一に、得意な事（絵を描くこと）があったのですが、それ

は絶対にやらせてもらえなかったことです。口にするのも許されませんでした。ただ、母が絵が嫌いだったという理由で。そして第二は母の気性です。今だと境界性発達障害とか人格障害と判断されているかもしれないが、うまく弾けなかったり、レッスンで同じことを注意されたりすると、激しく私を怒鳴り、折檻する（たたきつける）という日々だったので。

側から見たら、教育熱心な母親とピアノがとても上手なお嬢さん。でも実際は嫌で嫌でしかたがない。私を私らしくさせてもらえないことや、ひどい言葉や暴力を振るう母への憎しみや悲しみで心は一杯。自分の本当の母親はどこかにいるに違いないという妄想や、この人にいつか天罰が降りればよいと、自分の母親に対してこのような恐ろしい願いを、私は小さな頃から握りしめていたのです。

なんだかとても重たい話になってしまいましたね。でも、もし私がイエス・キリストに出会わなかったら、福音を知らなかったら、私は母を憎んで一生赦すことができなかったでしょう。

それだけでなく、自分もその呪縛から解放されなかったかと思っています。

話がまたピアノに戻りますが、中学に入り、身長が伸びず手も小さいままで、これはピアニストには身体的に無理だと先生から宣言され、ピアノをやめることになりました。私は天にも昇るような歓喜。怒りが収まらない母は「ピアノは一生弾くな！」と。私も心の中で「ええ、弾きません」と。それからは毎日のように「あなたは人生の敗北者、脱落者」という言葉を浴びせられ、私が大学生になって教会に行き始め洗礼を受けた時も、「あなたは敗北者だから教会しか受け入れてくれないのよ。教会の人は誰でも受け入れてくれるからね」と言われました。まあ、ある意味間違っ

## 高校、大学時代

その教会へどのように私が導かれていったかと言いますと、きっかけは「英会話」でした。実はピアノを辞めてから、習い始めたのが「英会話」だったのです。



洗礼式で フリーゼン先生と母と

これは自分で選択しました。それが楽しくて楽しくて！そして高校の時にフリーゼンご夫妻（メノナイトブレザレン教団の宣教師）に出会い、彼らがミニストリーとしておこなっていた英会話教室の伝道イベントに参加し、そこで初めて聖書の話聞きました。ある時、音楽のゲスト（オペラ歌手）の方が特別賛美（その当時は賛美という言葉も知りませんでした）をされ、彼女の歌を聴いた時に不思議と涙が止まらなくなりました。「自分は、彼女のように音楽を奏でられない。それは彼女は神様を信じているから。信じていない私はどんなに上手になっても彼女のように歌えない」と。神様を信じていない自分の姿

がはつきり見えたのです。その時に、フリーゼン先生がよく口にしていた「罪」という言葉の意味が自然と腑に落ちてきたのです。私にとつての「罪」は、神様がいのちに、いないと否定していることなんだと。その時に私は神様から迫られている気がしました。信じられないか信じないかのどちらかを。そして、神様を信じる一歩を踏み出すように神様から後押しされているように感じました。静かに、しかしはつきりと。聖霊の働きですね。

その数日後、フリーゼン先生のお宅で、本当に単純な祈りなのですが、心から神様に「ごめんなさい」と言いました。そして次に出てきた言葉に自分でもびっくりしたので「神様、私の父と母を救ってください」と。私を傷つけ続けている母へのとりなしの祈りがまさか自分の口から出てくるとは！でも、これは神様がそれを願っているからこそなのです。

### 新しい歩み

キリストを救い主と信じ

る者となったある日、私はある祈りへと導かれました。それはクリスチャンになる以前の人生もすべてを神様が益として導いてくださったこと。たとえそれが自分が願っていたような状況でなかったとしても。その事を思い巡らしていた時に、私にとつて痛み、苦しみ、悔しさがよみがえってくるトラウマのような音楽の経験、これからの人生のために祝福して用いてください、という祈りが込み上げてきたのです。

そして私は、大学卒業後、アメリカの聖書学校で音楽を学び、帰国後ライフミニストリーズという宣教団体の音楽伝道部「ソングライズ」を立ち上げました。音楽を通して神様を愛する多くの方々と共に働くことができました。主人とも出会い、二人でWingsというユニットを組んでオリジナルの賛美歌を作曲し、コンサート活動も始まりました。

### これからも

今、仙台に移り住み十七年が経ちました。研究職の主人の仕事も忙しくなり、

コロナの頃からはコンサート活動も以前のように活発にはおこなってこなかったのですが、最近、神様からの励ましのアプローチがありました。それは、加齢と共に声が衰えてきていても怖がらずに歌い続けるように、と。Wingsの楽曲は神様から頂いている大切な宝物、神様を証しするいのちの曲、それを神様は私たちの手に託している、と語られ、初心に戻らされます。

今年からは仙台の復興住



①



②



③



④

ソングライズの活動 ①救世軍渋谷小隊でのクリスマス集会（右から3人目）②レコーディング ③ソングライズのスタッフと共に ④様々なアーティストとツアーをおこなう。レーナ・マリアさんはその一人で今も友人

家で、長町南教会主催で、唱歌や歌謡曲、Wingsのオリジナル曲を皆さんで練習して一緒に歌う会をリードさせていただいています。私の愛誦聖句は、イエス・キリストがおっしゃったこの御言葉です。「わたしが来たのは、羊たちがいのちを得るため、それも豊かに得るためです。」（ヨハネによる福音書10章10節 新改訳聖書）この聖句の中の「いのち」と「豊かに」という言葉が



姫路のカフェでのWingsのコンサート

好きです。神様からのいのちを頂き、さらにすごいボーナスがもれなく付いてきた感じがします。その豊かさは一人ひとりの人生で違って現れているけれど、それぞれの人生に満ち満ちている。自分の中にある恵みの豊かさを、神様のまなざしで見ることができるようになれる、福音の約束の言葉です。今年、私の心に留まっている漢字は「息」です。聖書によると、神様の息は私たちに注がれ、神様のいのちが私たちのうちに宿っています。賛美をする時に、この息が生きた言葉として人々の魂に響いていくようにと願っています。私が賛美によって神様に出会った時のように。

\*レーナ・マリア：スウェーデンのゴスペルシンガー。出生時から両腕と左脚にハンディを負うが、世界中でコンサートを開き、日本にも度々来日した。

創立者 ウィリアム・ブース 大將 リンドン・バッキンガム (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 西村 保 (救世軍本営 東京都千代田区)



世界をみつめて

〈ウクライナ〉 侵攻から4年を迎えて

2月24日、ロシアによるウクライナ侵攻が始まって4年が経過しました。ウクライナの多くの地域では今も戦闘が続いており、ミサイルやドローンによる攻撃が日常的となっています。前線付近や占領地では、電気、暖房、清潔な水、医療へのアクセスが依然として限られているとのこと。600万人以上のウクライナ人が難民として国外に生活し、約370万人が国内で避難生活を送っています。数百万戸の住宅や生活に不可欠な建物が損傷を受け、住宅不足と復興の困難が続いています。長期の紛争は、人々の心理にも深刻な影響を与え、多くの大人や子どもたちが不安やトラウマを抱えています。

救世軍はウクライナ国内で、食料、衛生用品、水、衣類などの生活必需品や商品券の配布を継続してきました。さまざまな困難がありますが、礼拝と奉仕、子どもたちのためのウィンターキャンプなどの活動も続けています。また、難民の受け入れ先となっているヨーロッパの国々では、救世軍のセン



マイナス21度にまで冷え込んだ町で、ホームレスの人々への給食をおこなった(ウクライナ・クロピヴニツキー)

ターが拠点となり、就職や住居についての相談、礼拝や子ども向けプログラムなどを通じて、サポートを提供しています。

紛争が続く中、救世軍は長期的な支援を重視し、人々の生活の安定と再建のため活動しています。都市は荒廃しても、被災した人々とその支援者たちの間には、立ち直ろうとする強い力が見られます。

ウクライナ・キーウでの救世軍のスタッフの体験談(英語記事)



〈万国社会正義委員会〉 性的搾取から子どもを守る決意の再確認

第70回国連女性の地位委員会が3月9～19日にニューヨークで開催され、救世軍万国社会正義委員会のメン

バーが出席しました。女性に対する暴力の根絶、すべての女性と女兒のエンパワーメントが課題であり、救世軍はそのために尽力することを表明しました。特に、世界中で紛争による避難民が増加し、脆弱な立場におかれている子どもの数が非常に多くなっている中で、子どもたちを性的搾取から守るという立場を明確にしました。

救世軍は134の国で活動し、人身取引や搾取の被害者を国際的ネットワークを通じて支援していますが、その中には性的搾取を受けた児童も多くいます。ある少女は、教育を受けられるという偽りの約束で他国へと人身取引されました。救出されて緊急のケアと心理的・社会的支援を受けた後、国境を越えた協力によって国に帰ることができました。その後も継続的なケアを受けています。このケースが示すように、子どもたちの保護のため、国境を越えた協力は欠かせません。また、最前線で働くスタッフに対する、より充実した研修も必要とされています。

救世軍は、地域社会に基礎を置いた予防策の拡充、保護のための国境を越えた協力の強化、そして子どもや被害者の視点が政策や説明責任に反映されるようにすること、という3つの優先事項を提唱しました。すべての子どもが安全で大切にされ、生き生きと生活できるよう、他の機関とも協力して働きを進めていきます。



救世軍とは? What is the Salvation Army?



救世軍は、世界134の国で活動するプロテスタントのキリスト教会で、国際本部は英国ロンドンにあります。1865年、英国のメソジスト教会の牧師ウィリアム・ブースと妻カサリンによって始められ、東ロンドンのスラム街で、家のない人々、アルコールの悪影響下にある人々、搾取される女性や子どもたちに助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました。



日本では1895(明治28)年に英国から士官(伝道者)たちが来日して救世軍の働きが始まりました。その時代、日本人で最初の救世軍士官となった山室軍平は、平易な言葉で聖書のメッセージを伝えるとともに、廃娼運動や結核療養所の設立にも力を尽くしました。日本で131年目の歩みを進める今も、各地の救世軍の拠点では、聖書を土台とし、キリストの愛と救いを伝え、人々のニーズに心を寄せ、奉仕する働きが続けられています。

☆『キッズ・ゴスペル』コーナー☆ (子ども向け紙面)



左のQRコードから、今月の『キッズ・ゴスペル』を閲覧できます! 聖書のお話も動画で見られます。ぜひ、ご覧ください!

救世軍公報 ときのこえ

発行日 福音版/毎月1日、広報版/奇数月15日
定価 福音版/1部40円、広報版/1部100円
(税込) クリスマス特集号(12月1日号)/1部100円
振替 00180-5-4400
発行兼 救世軍
印刷人 代表者 西村 保
編集人 平本 祐子
発行所 救世軍本営 https://www.salvationarmy.or.jp
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17
電話 03-3237-0881(代表)
Mail jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org
印刷所 有限会社コーチ印刷



聖書は新共同訳を使用しています ©共同訳聖書実行委員会 ©日本聖書協会 救世軍は、旧統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。

【取り扱い支部】

救世軍への連絡をご希望の方は、以下の中から該当する項目及び住所氏名をご記入の上、救世軍本営(左記)、もしくは、上記救世軍にご連絡ください。
・私の近くの救世軍を紹介してください。 ・キリスト教についてもっと知りたいです。
・『ときのこえ』の購読を申し込みます。 ・相談を希望します。